



3月3日現在在籍数 284名

気仙沼市立松岩小学校

■ 本校の教育目標 ■

志を持ち、  
かしこく、やさしく、たくましく  
生きる児童の育成

令和6年度 学校だより NO. 11

令和7年3月3日（月）発行

## 地域の皆様に支えられ

気仙沼市立松岩小学校 校長 佐々木 裕作

先日、松岩漁港で4・5年生の子供たちがわかめの刈り取り体験をさせていただきました。種ばさみをしたのは、昨年のお11月26日。その時の種の大きさは、5cm程度。それが、3か月後には、子供たちの背丈よりも長い2m以上に成長していました。その成長のすごさに、子供たちは驚きを隠せない様子でした。

松岩浅海漁業研究会の皆様にご教壇いただき、参加した子供たち全員が一株一株切り取らせてもらいました。刈り取ったわかめは、お土産として子供たちに持たせていただきました（職員分も頂きました）。一人5株ほどいただいたので、子供たちが準備したビニル袋はどれもぱんぱんでした。子供たちは、「わかめご飯にする」「味噌汁に入れる」「わかめスープが楽しみ」とロクに話していました。「松岩でなければ体験できない活動だな。本当によい経験をさせてもらっている」と感謝の気持ちでいっぱいになりました。今回の活動を通して、子供たちは気仙沼の海の豊かさを実感できたことと思います。

今回の体験活動は、松岩浅海漁業研究会の皆様のご支援・協力が行える体験活動です。公民館と連携しながら行っている体験活動でもあるため公民館からの謝金がありますが、ほぼボランティアで行っている体験活動です。例年ですと、5年生が行っている活動ですが、総合的な学習の時間の教育課程を昨年度変更し、今年度は4年生対象の体験活動としました。そうすると、5年生の子供たちがわかめの体験活動を行えないまま卒業してしまうことになるので、今年度は、無理を言って二学年の体験活動をお願いしました。狭む種の数も増えれば、種を狭むロープも倍になり、当然のことながら作業時間も、費用も倍になります。そんな学校の都合での変更に対しても、松岩浅海漁業研究会の会長、齋藤 智 さんは「子供たちのために」と体験活動の準備を進めてくださいました。本当にありがたいことです。学校が、そして、子供たちの成長がいかに地域の方に支えられているのかということに改めて実感しているところです。

今年度から、松岩中学校区で学校運営協議会を立ち上げました。学校運営協議会が設置されている学校を、コミュニティ・スクールと言います。コミュニティ・スクールは、学校と地域が連携・協働し、地域でどのような子供たちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域の皆様や保護者の皆様と共有し、地域と一体となって子供たちを育て「地域とともにある学校づくり」を目指すための組織です。

例えば、学校では「たくましい子」の育成を目標の一つとして掲げ、体育の授業では目標を決めて運動に取り組ませること、外遊びや徒歩通学を奨励することなどに取り組んでいくとします。では、「たくましい子」を育成するために、家庭でできることは何か。また、地域でできることは何か。学校でもっと取り組めることはないか。そういう視点から学校運営協議会で熟議を行います。熟議を受け、学校、家庭、地域それぞれで取り組むことが明らかになれば、それぞれの立場で実際に取り組みます。それが、地域を挙げて「たくましい子」を育てることとなります。

今年度は、立ち上げ初年度ですので、まだまだ手探り状態ですが、先に紹介したように、松岩小学校は、たくさんの地域の皆様に支えられながら教育活動を進めております。今後も、学校運営協議会を中心とし、「どんな子供たちを育てていきたいのか」という目標を、学校、家庭、地域の皆様と共有し、まずは、学校ですべきことをしっかりと行い、その上で、家庭、地域の皆様のお力をお借りしながら、変化の激しいこれからの社会を生きるために確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を身に付けた子供たちを育てていきたいと思っています。